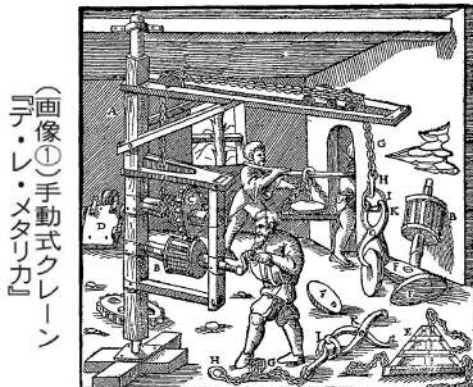




(画像①)手動式クレーン
『デ・レ・メタリカ』

船舶用アンカーチェー
ンの製造法を主に書いて
来ましたが、アンカーチ

鉄のふしぎ? 博物館

■66

「クレーン用チェーン」

エーの使用は1800
年代から始まった新しい
用途です。それより遙か
以前、紀元前から港湾の
封鎖用や舟橋用にチェー
ンは使われています。ま
た、重量物を吊り上げる
道具、クレーンにも使わ
れていました。1556
年に出版された『デ・レ
・メタリカ』(ゲオルク・
アグリコラ著)には金属
の手動式クレーンの絵が

これらのは鎖は鍛接によっ
て作られています。
日本では明治維新以
降、欧米の先進技術を導
入し、お雇い外国人を教
師として、それらの技術
を理解し習得・定着させ
て来しました。その過程は
機械の輸入・技術指導・
製品の完成、機械部品の
国内生産・機械の製造と
進んで行ったに違いあり
ません。姫路では『銀の
馬車道』といって、生野



(画像②) 神子畑鉄橋

あります(画像
①)。一つは炉の
円形の蓋を吊る
もの、もう一つ
は銅を精錬する
過程で、銅に含
まれている銀
を、鉛の合金作
用で銀を抽出す
る作業(灰吹法)
の前工程で使用
するものです。



(画像③) 最初の自動曲機 (株)キートン

883年には1
00万ト、明治の
中期には採炭の機
械化が進展しま
す。トロッコを連
ねて石炭を運ぶ方
法もこの時期に開
発されたものではな
いかと思っていま
す。鉱山用の三連
チェーンやコンベ
ヤーチェーンを製
造する会社は現
在、大阪市に2社、昭和
10年(1935年)と昭
和12年に創業でした。石
炭用トロッコには『打抜
三連チェーン』と呼ばれ
るユニークな、リンクを
3つ連結した、溶接をし
ないものが使われてまし
た。角材を横・縦・横と
叩きだした後、リンクの
形を削り出したのです。
溶接が信用出来ない時代
から、高信頼性のフラッ
シユバット溶接の時代へ
の変革、コンベヤーチェ
ーンが作られました。
一般産業が発達して作
業方法が改善されるよう
になり、クレーン用のチ
ェーンが頻繁に使われる
ようになります。チェー
ンブロックで有名な山梨
のK社では最初の自動曲
機(マイヤー社)が展示
されていました(画像
③)。昭和14年(1939
年)この時に自動の溶接
機と共にドイツから輸入
されたものです。

衣川製鎖工業・衣川良介社長

画像はカラーと
交換しています。